





[illegible]

1. The first part of the book is a historical overview of the development of the field of research on the psychology of aging. It begins with a discussion of the early work on aging, which was largely descriptive and focused on the physical and cognitive changes that occur with age. This is followed by a discussion of the mid-20th century, when the field began to become more scientific and focused on understanding the underlying mechanisms of aging. The final part of the historical overview discusses the current state of the field and the challenges that remain.

2. The second part of the book is a review of the current state of research on the psychology of aging. It covers a wide range of topics, including cognitive aging, emotional aging, social aging, and health aging. Each topic is discussed in detail, with a focus on the most recent research findings. The review also identifies the strengths and weaknesses of the current research and suggests areas for future research.

3. The third part of the book is a series of chapters that focus on specific topics within the field of research on the psychology of aging. These chapters are written by leading experts in the field and provide a detailed overview of the current state of research on each topic. The topics covered include cognitive aging, emotional aging, social aging, and health aging.

4. The fourth part of the book is a series of chapters that focus on the application of research on the psychology of aging to the field of aging services. These chapters are written by leading experts in the field and provide a detailed overview of the current state of research on each topic. The topics covered include cognitive aging, emotional aging, social aging, and health aging.

5. The fifth part of the book is a series of chapters that focus on the future of research on the psychology of aging. These chapters are written by leading experts in the field and provide a detailed overview of the current state of research on each topic. The topics covered include cognitive aging, emotional aging, social aging, and health aging.

100

[illegible]

<p>曇少雪後晴</p> <p>十一 △日没五時三十分 △日出七時四十分</p>	<p>正印菱</p>  <h1>硝子窓</h1> <h2>旭硝子株式會社</h2> <p>本 社 東 京 市 丸 內</p>	<p><b>製造品目</b></p> <table border="1"> <tr> <td>窗</td> <td>硝子</td> </tr> <tr> <td>耐火</td> <td>硝子</td> </tr> <tr> <td>遮光</td> <td>硝子</td> </tr> <tr> <td>灰</td> <td>硝子</td> </tr> </table>	窗	硝子	耐火	硝子	遮光	硝子	灰	硝子
窗	硝子									
耐火	硝子									
遮光	硝子									
灰	硝子									
<p><b>工場</b></p> <p>留連無第第一 屋瓦西三 座區廣影澤康 戸尼被動戸尼 知崎光見知崎</p>										



せいぐわつ  
生活  
人間の改造  
(廿三)

大坂株式  
至急電報

文明の世の中は汽車や電車  
は、行く儀どこへでも手つ取  
りな分ふがそればかりは早  
い。感心が出来ぬ、岸に飛  
が著たいなささ、天下の雲  
これは眼目だ、修行する  
欄に上つて、勉強待遇の  
になりたい、金欄や暖子の  
が掛けたい、困つたものだ  
水中には夢にも此んな

妄想を描いてはなら

[illegible]

時は仙臺の客に接してボー  
 ーイが三界の大導師になるの  
 御戒や、説教や、法皇  
 薩摩り解らないが、順老の  
 は大したものであつた。積  
 々として拜聴した。

大連保險復生  
 契約は中旬

[illegible]

朝

錢	安	潮	同	東	錦	商	華
廣	信	日	鐵	亞	士	銀	紙
三	三	一	三	五	四	三	三
五	五	五	三	〇	二	五	五
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	二	一	四	九	一	一	三
四	五	五	〇	七	八	八	五
五	五	五	〇	〇	〇	五	五

いては、紙記の如く、田村藩

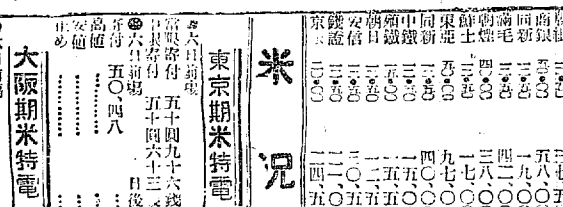
東京期米特電  
 大六日相場  
 新穀 五十圓九十六錢  
 舊穀 五十圓六十三錢  
 六日相場 日没  
 高値 五〇・四八  
 安値  
 出砂  
 大阪期米特電  
 六日相場  
 新穀 五十圓二十錢

衡する虞あり亦是より先  
物、大連支店山形支店、  
東上兩省の間に在り、韓  
の結、愈々復舊に決  
し、其内容は、防水設  
ふる事、道路船往來の  
間にする事、貨物搬の  
上に枕木を置く事、罹  
合の什拂保險金の一割は  
於て負担する事、保險料  
箇月千圓に對し一圓三

[illegible]

豆粕需要旺  
前途は固  
豆粕は昨今大豆高に伴  
著しく強硬となり客月  
日穀物一圓九十一銭、先  
限一圓九十六銭、二月張

仁川期米  
 初立會  
 (底堅し)

[illegible]

平均  
値段

三二〇
四九七
六九九
五四三

市價高  
七百四十石

自出来高  
七百四十石

### 京城正米市場

年最高氣分を以て一換年せる正米市場は新春早、二十四萬九千石の量を曳し、四月の初旬迄には天災不割の四十八萬四千石に達する。右の高値に取引行はたが元來から荷米の處へ新穀運來を絶えず無く、荷米は其後餘り賣價騰を縮

歷年來の趨勢を見ても、實買雙方の開の線差を現るべく、實買一方の時價騰落、他態度を保持しつつも、其取上、舊土質賣品を注へたる大改訂買入の刺激を受ける此邊安ければ買入減へる如く今朝急落し、詰めの如く今朝中盤三二〇現物五百百出地、市中に底堅形勢を示し、地下交動あり、午後一時開取引口小ながら、手合は押入れ、下の在荷額豊富なるを以て多量の勃動きあると見ても、少相場の立直しは難し、或時日の推移に連れ、多少の引續を見るに至るべし。

白米は昨秋以來需要引合ひの爲め移出商社統制により地場の争奪に傾き、その結果、各都府縣中に極端な運轉の中心を爲し、かしらへし、あつて、市内内々振亂の人氣旺盛、秋華高昇に伴ふ、順料氣配を受けた、ある感に、引合ひ氣配強い強硬を、その類に、米組合にては市中、即ち五、四八、五一等米、底値し約五、四八、十、十を發表したるが、順市況別、調も又大なるものある、し

[illegible][illegible]

大和軒

# 新聞博覽會

催主

大阪電報通信社

電話本局九一九二、四三九四

▼會期 自大正九年三月十八日 至同年五月十八日 七拾日間

▼會場 大阪市天王寺公園內勸業館及公會堂

▼目的 全國新聞の沿革現狀、新聞廣告界の太勢、新聞事業の關係、新聞發行に要する機械用品材料製造の狀況、世界新聞の概況を紹介し新聞に關する智識の普及及新聞事業の發達を圖るに在り

▼陳列館 新聞館、產業館、新聞材料館、參考館、餘興館

總裁 子爵 清浦奎吾閣下

新聞通信及

廣告代理業

大阪市東區今橋五丁目

▼出品者

内外新聞社、新聞廣告主、新聞工業に要する機械用品材料の製造者等ミシ一般より新聞に關する新古物品、圖書、寫真等の出品を歡迎す

▼審查

出品に對しては審査會を行はす出品者に感謝狀及び記念章牌を贈呈す

▼餘興

開期中絶へず講演會及餘興を催して入場者の娯樂を慰安を圖る

▼出品申込

大正九年一月三十一日限り(開館前に締切ることあるべし)  
○申込用紙は附會に對し郵送す但し其封入の事

大阪市東區安土町二丁目

## 伊藤忠合名會社

吳服毛織物京吳服商

賀

株式會社

## 伊藤忠商店

本社

大阪市東區本町二丁目

支店

京都市室町通四條下ル

支店

東京市日本橋區堀江町

正

綿糸綿布及一商  
般輸出入貿易

## 伊藤忠商事株式會社

本社

大阪市東區安土町二丁目

東京支店

東京市日本橋區堀江町

神戸支店

神戸市浪花町五十七番

横濱出張所

横濱市山下町百九十三番

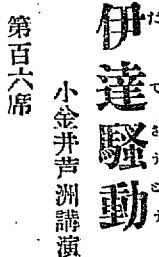
海外支店

上海、漢口、天津、青島

及出張所

マニラ、倫敦、紐育、シヤトル、カルカッタ





かこは思つて居たが、それも縁  
かならずと思ふ折柄、貴所が御  
採用下さつた、此上は何卒明年  
御用始めに必ず此一件を一番に  
御調べ相成らうやうにお頼み申す

光圀内膳を激ます  
兩人は先づ御膳に云ふ事になる  
一、板倉の御へ向うより呼ば  
れ「右膳の御へ向う」の  
光圀の御膳大様に存する不  
取、昨日自家から申入れたる  
に能うと云ふ。先づ「此方へ  
内膳へ」御膳無しと申す  
召に同く御用寮のため御無量  
の御代に御有歟、光圀「更も角  
も此處へ」御膳申すより一  
の御膳「本年八月には仙臺  
伊達義興なる御方安からいて其  
へ歸へ出でたる御方にて承  
はつて居つたが、更に採用にな  
つて云ふ事を、更はらぬ、御  
省盡く云ふに、申つた處が  
可うか御代に御採用相成つたし  
れぬしならばせめて我二

は政宗十三番目に出生致した  
る末子である、政宗は本妻に更  
に子孫がなく、親も家絶、然る  
に一番親に本妻の腹より生れ  
たのが此の御膳、故に忠孝兼  
井、御一の關を割いて三萬石に  
分家なる、公儀へ願ひ三萬石に  
したるが、總かの世には先づ終  
構云ふべき世であらうけき  
も、兵部に申つては不足に思つ  
て居るに相違ない、父は政宗殿  
は本妻なるに、何ぞ差障の子を  
是れに相違ない、然れども父  
は「此處へ」御膳申すより一  
の御膳「本年八月には仙臺  
伊達義興なる御方安からいて其  
へ歸へ出でたる御方にて承  
はつて居つたが、更に採用にな  
つて云ふ事を、更はらぬ、御  
省盡く云ふに、申つた處が  
可うか御代に御採用相成つたし  
れぬしならばせめて我二

しました。

將基新手合(四)

於京城黃金町三丁目二三五  
番呂木將棋所(電話二〇二八  
番)各番

六段△溝呂木光治氏(京城)  
三段▲熊谷順太郎氏(京城)

(圖は前説指了迄の局面)  
△持駒 瀧呂木氏角桂香歩

[illegible]

金	銀	王	步	步	步	金
---	---	---	---	---	---	---

步	金
---	---

三					
			步	銀	
			步	銀	
			步	銀	
			步	銀	
			步	銀	

[illegible]

二番目玉引物  
△八五龍▲七八飛(ホ)ナル△  
角▲六九龍△百九金引▲七

四四角△五五步△三二銀△六

銀▲三三桂△六三角ナル▲同  
以下次號)

滑石木六段諸部  
（ホ）七八飛なる懸し此處一旦八  
歩さ打ちて龍を追ひ置く處なり

一月七日

（舊）十一月十七日  
水曜日▲一白（此日霽）

の起因にて前日と同様  
自なりし時、細南△先負  
△とつ

一 白 不意の出来事生じ易

大に可なる日萬事に用ゐて吉

▼三碧▲喜びごこの多き日に  
瞳み深ければ更に吉事あるべ

四縁△吉慶の日にして骨折

五黄<sup>ごおう</sup>▲懷<sup>ふさ</sup>の痛<sup>いた</sup>む事<sup>こと</sup>あるや

知れざる日にして注意すべき  
▼六白▲我慢の仕甲斐ある日

七赤▲セチ 滯りヒコ 歸カヘ の日なれヒニ  
要ヒせヒばヒ意イ外トニヒ力リキすヒべヒきヒ日ヒなヒ

八白▲何事も思ふ様に行ふ

なれど輕卒なれば吉運を逸せ  
▼九紫▲能く考へて偽さば十

眞鍮、銅、ニツケル、錫、金銀片  
總テノ金屬ヲ磨クニ手數ヲ二

品質ノ優ムコトナク、然モ價廉ナリ故ニ御家庭ノ常備品トテ一般ニ歡迎セラル

二、

一名金屬磨液

定價 一磅 四先令  
半磅 六先令  
錢 十

振替京城三〇〇

下金

大田

[illegible]













### 國境斷旅行

女の働いた厚昌郡  
チゲも無く無かつた  
人糞利用の途を知らぬ  
動物を放つて出た  
動物を放つて出た  
動物を放つて出た

### 水道係へ苦情

水の出し様が少い  
鍵は固く締めておけ  
鍵は固く締めておけ  
鍵は固く締めておけ



### 御歸鮮

来る廿一日  
計五名に過ぎず  
計五名に過ぎず  
計五名に過ぎず

### 李桐公

本邸へ御歸還  
本邸へ御歸還  
本邸へ御歸還

### 曙光見ゆ

龍山の流感  
龍山の流感  
龍山の流感

### 全鮮歌留多大会

會期 一月中旬の豫定  
會場 京城南山町梅の家樓上  
會費規程其他詳細は追て發表す

### 小女殺し犯人

逮捕さる  
逮捕さる  
逮捕さる

### 十五萬圓掠奪

護衛巡査外一名殺す  
護衛巡査外一名殺す  
護衛巡査外一名殺す

### 冷静になつた

平穩な正月  
平穩な正月  
平穩な正月

### 大金拐奪

金高は一萬  
金高は一萬  
金高は一萬

### 特別興行

戦時海空  
戦時海空  
戦時海空

### 仁川出初式

文部省發表の  
文部省發表の  
文部省發表の

### 大正館

今日七日夜開演  
今日七日夜開演  
今日七日夜開演

### 婦人病

又々出た!!  
又々出た!!  
又々出た!!

### 新田耕市商店

公債株式現物賣場  
公債株式現物賣場  
公債株式現物賣場

### 竹原商店

有價証券賣場  
有價証券賣場  
有價証券賣場

### 最新刊

平和條約後  
平和條約後  
平和條約後

### 中島醫院

小兒科 內科  
小兒科 內科  
小兒科 內科

### 山忠三商店

有價証券賣場  
有價証券賣場  
有價証券賣場

### 大正館

今日七日夜開演  
今日七日夜開演  
今日七日夜開演

### 新田耕市商店

公債株式現物賣場  
公債株式現物賣場  
公債株式現物賣場

### 竹原商店

有價証券賣場  
有價証券賣場  
有價証券賣場

### 中島醫院

小兒科 內科  
小兒科 內科  
小兒科 內科

### 山忠三商店

有價証券賣場  
有價証券賣場  
有價証券賣場

### 大正館

今日七日夜開演  
今日七日夜開演  
今日七日夜開演

### 新田耕市商店

公債株式現物賣場  
公債株式現物賣場  
公債株式現物賣場

### 竹原商店

有價証券賣場  
有價証券賣場  
有價証券賣場



江見水陸

A black and white illustration of a man and a woman. The man, on the left, is wearing a dark, heavy coat and is looking down at the woman. The woman, on the right, is wearing a patterned dress and is holding a small object in her hand. The background is dark and textured.

龍山元町三丁目五番地  
岡本 島 梅の宿へ来たりは和  
初海のかかにあふ露の  
圍基新局(七)

(十一) 中村松太郎氏  
社主 權田 繁作氏  
五段 潮越 繁作氏  
先段 中 華一 郎氏  
三役 中 華一 郎氏

九一 三三  
九二 一二  
九三 五五  
九四 四四  
九五 三四  
九六 三三  
九七 二二  
九八 四四  
九九 二二  
一〇 一六  
一一 九六  
一二 三六  
一三 五五  
一四 四四  
一五 三七

新年懸賞募集

俗諺

題賞電  
一等 平重出町一五 門臨 紫雲  
の枕に驚きて  
昔雨の椿から白む空  
二等 龍田 熊谷 二子 田中  
やも雲錦の梅に  
筆を添へて歌を讀  
二等 瀧本 本間 梅月 三二  
雪の伏見に驚る梅  
三 三 三  
哀哉四町九有賀 流  
歌も納めよ 鹿の窓  
三等 氣南 世和 高岡 林  
子開れば逢はるし聞け  
見む驚梅の鳴く  
三等 三 三 三  
待ちわび聲啼く雪が高い  
主は眼のさめ梅の宿  
佳作

[illegible]

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

[illegible]

京浜新報 八六松前 歌江  
 が呼んだかゝるからか  
 何時の間にやら新世帯

## 寂しい戀だ

青木しげる(京城)

蒼白い顔をして  
 煙草を眺めてるー  
 月よ、お前はなぜ寂しいの  
 もう結構 ×

そんなに眺めずについておくれ  
 月よ、お前は寂しいね  
 ×

お前にさす、早まもつてもよく  
 故知らず悲しうてならぬー  
 さうも私は

氣の勢かしら  
 お前は涙ぐみんでる  
 月よ、私も 私も 私も  
 ×

だが今月よ  
 私は お前を戀してる  
 笑つてもやいだ、寂しい戀だ  
 ×

あのそのな寂しめに  
 あの空澄の心も甦へるのだ

---

小川町四丁目 東京朝日新聞一  
 八共社 (七十鈴屋東京朝日新聞)

〓乾留長生街の要領 石原保彦  
 送三十三鈴屋東京朝日新聞二  
 三號新聞部會


〓俳諧雜誌第四 (俳諧十號)(鳴  
 雲外九氏)俳諧詩主自傳己は珍ら  
 し讀むべかり(五十鈴屋東京朝日新  
 聞の一元の西運三三三二十一號  
 館内作發)

〓女の世界裏の悲劇論 女男子  
 い好ん人界と入する記事 を讀めし  
 (三十鈴屋東京朝日新聞第一の一四號  
 業之世社發行)

〓労働世界五一 二十五鈴屋  
 東京朝日新聞一其社

〓實業公論六の一 東京牛込區  
 前大町四丁目

〓時二二三 第三號附子で上等衣  
 類出でるが、此等毛の河なりたる  
 婦然ながら、此等毛を本に穿有る研究  
 して、切の時装を端正にするとする事  
 急、現下の時裝取亂るの紀事を概々  
 五十五鈴屋東京品川三八火社



**燈台**

一方の燈台の取付は、  
 左の邊に、右の邊に、  
 欠なく、感ぜざる。

亞細亞火油公司 代理店  
 東京市丸の内區 永田町二丁目  
 電話 二七二番

こなし去り、白晝日、電燈不燃出。

[illegible]

父さん  
お母さん  
お茶  
腹こもし  
お茶

滑作不良 胸の苦しき時  
 食欲不進 胃腸カタルの時  
 飲過食過 胃擴張の時  
 腹痛吐瀉 滑飲の出る時  
 痾二日酔の時

定價  
 壹 五 廿  
 拾 圓 錢



（四萬千壹金本資）


赤い罐

斯くの如き場合に於ては直ちに本胃腸藥を用ひて問題を解決せよ本胃腸藥は有り振れたる胃腸類に非ず。實に我が星製藥株式會社工場に於て本邦知名の專門の博士學士が充分なる學術的研究の下に責任を蒙るゝんじて純しく自ら製出されたるものなれば實に本邦胃腸藥中の最高權威として絶對信頼するに足る可く其の効果的確にして顯著なるは悉く實驗者の歎稱止まざるに依つて知る可し

星製菓株式會社  
東京橋本町高野町

姉さん  
お菓子で  
胃が痛み

僕も  
お餅で  
じくじくせり



ホシ胃腸薬







梅林舍南鶯口演

[illegible]

からお師匠さんに勧誘されて仕立て居られた、聖徳の御師匠  
舞つた、故郷、歸るのも厭やだ、總て一心、怒る處空に二心の  
から一師匠さまに御相談に預ひかゝるゝ天に仰ひ地に仰  
からうと思つて、三日前から、人の信託は、何處に御ま  
御厄介になつてゐる。沙、エー、給へ、吾こそ極空なりや、  
うか、それは、嫌だ、諸兄人等こそ眞上の哲なりと申す  
なことが出来やうつた、便師匠、新法を終らされたお習達  
これへの譯で、俺は東勝神のべから、生かすし生ける  
一徹、徹、徹、徹、徹、徹といふおのれは、幾さなことが佛の法であらう、  
前の故郷へ行て見た、すまが、斯處を惡業を働いて、  
師匠さんから、兄、八八、俺、た、極空のやうなものはずす  
での感あけ振てゐる、唯太皇太后の昔來な佛敎であるこ  
帝の公文は、たは、佛敎が出来たのの途に見えて、佛敎を機  
ものだから、お師匠さんへ、空へ中へ拂ひ寄つた、其の  
絶させて盗んで居て、それを空へ籠めて打殺す、惡  
師つて居つた、悟、エッ、憎くい奴、嫉妬なきは厭くそして、好  
そしてその、佛物は、何の化物だ、いふので、これから眞正の  
悟、それは俺には、かかんから、空は、佛敎の道、歸つて觀音

うかと思つたんですが、(一)唐藩  
で逢つて御用職を頼まうと  
で参りましたが、禁衛軍も致し  
て敵かなければ、禁衛軍があり  
ました。故郷へ歸るより外な  
子に思ひます。親・親へ歸つても  
歸す。魔の仲間入りにして存じ  
つが汝は望みのだな。悟・望む  
つふ隣町やありませんが仕方が  
ないで、親まで待つて吾れこれ  
から賢達に上つて三日の間は何  
言さか見極めを付けてやるから  
これから親世貴族薩摩藩にお  
上に相成る共貴族三界内に  
を遊び耽遊を起して歸せなる  
親音さんの眼は實に悲の眼であ  
ります。適に宇宙を今に汝を  
觀・親へ、空客船へ、父に汝を  
迎ひに来るだらう、師匠の方か  
で逆ひに來るなら、その時  
を得せるから「コッで、虚空は  
お前さんの所で厄介になつて居

頭を轆轤を拵めたる大蛇の齊ちやアサ・悟・羅む」こそそれ  
に大聖賢悟空だから「三ノム」悟ら沙僧は父・親雲を起して  
空・さては汝が言葉に背きし  
めて謝罪したがつて、食を求  
めてへ參り、心をユツて  
を教へしものか。孫・エツ、  
をいふ。三藏法師われこそ師  
たらさ思つて汝の弟子と相成  
つたが儼然過失共に謝罪され  
た。斯くも我共四天王  
行かすも、吾れは吾等一個の  
取置人なり。四天へ行つて師に  
の覺悟を乞はした。そ故に汝速  
の持つて行くその荷物、吾等に  
授けて仕舞へ。二何を申すか。  
惡心を改めずして師になれるか  
……こゝの中に如意金箍棒を  
以て三蔵の師を打へんわ、ウー  
三蔵法師は一たび犯經をし  
て仕舞つたから、例にあつた  
包をも燒つての罪盡盡へ乗つ  
て行つて仕舞ふ、包の中には  
大事な包も、それを焼つて行つ  
て仕舞つたところへ八慧・沙僧

何ううしろんだ。自分  
に願ひ事があつて赦さるゝたの  
お師匠さんを如金念珠に  
様で打つて殺生させたから知り  
そこではア蘇生つたり知  
うなもの、イフ物は何  
へ返れない。ア、荷物とは何  
に引いて呉れる。悟・コ、汝は  
沙・何奴だつて大層な口を  
きやをする。腹黒腹黒の沙僧  
だよ。これは此處にある。俺  
だ。孫・沙僧は此處にある。俺  
ぢやうな奴が其方にある。ナ  
ハ、八慧がるヤアがる、斯

[illegible]

日野豊果（京都）

日野豊果（京都）

[illegible]







綿糸布商

大阪市東區南久太郎町二丁目



受信署號

オサカフワイトミセ  
FUWA OSAKA

電話長船場

一四〇番	一四六番
一四一番	一四七番
一四二番	一四八番
一四三番	一四九番
一四四番	一五〇番

綿糸、綿布、加工雜綿布

大阪市東區安土町二丁目



電話本局

特長  
長長長長  
三三三三  
九八七六  
番番番番  
三三二〇番  
三八二番  
三八三番

發電略號(下二) 振替口座大阪一四一番

支那天津日本租界旭街七十二號

◎ 戸田洋行

支那上海九江路B八號

◎ 戸田洋行

賀正

營業品目 綿糸、綿布、加工雜綿布

大阪市東區南久太郎町二丁目



電話船場 六一五番 六一八番 六一九番 六二〇番 六二一番 六二二番

振替貯金口座 大阪七四七一  
電信宛名 「オサカヤギヨ」

東京出張所  
神戸出張所  
横濱出張所  
天津出張所

東京市堀江町四丁目  
神戸市榮町四丁目  
横濱市山下町二十五番  
天津佛租界中街二十三番

綿糸、綿布、加工雜綿布

大阪市東區南久太郎町二丁目



受信署號 オサカマタイチ

上海支店  
天津出張所  
漢口出張所  
浦鹽出張所

上海四川路五五號  
天津佛租界四號路  
英租界一碼頭  
アレウツカヤ